

## ライフコース分科会 2022 年度活動報告書

日本発達心理学会第 34 回大会において、2023 年 3 月 3 日に、下記のラウンドテーブルを実施した。

### 個人，家族，地域における調節過程とライフコース（2）

企 画：	日本発達心理学会ライフコース分科会	
司会・指定討論：	岡林 秀樹	明星大学
話題提供者：	松岡 弥玲	愛知学院大学
話題提供者：	竹村 明子	仁愛大学
話題提供者：	浅川 達人#	早稲田大学

#### [企画主旨]

個人内の調節過程が適応に及ぼす影響は、これまでに数多く検討されてきたが、個人を取り巻く、家族、地域社会というレベルの異なるシステムの中でも目標や葛藤の調節が行われ、それらの調節過程は、相互に関連しつつ、個人の適応に影響を及ぼしていると考えられる。本ラウンドテーブルでは、個人の幸福や適応を考える上で、個人だけを捉えるのではなく、家族、地域社会というより大きなシステムにおける調節過程と、その相互関係を考えることの重要性について議論していきたい。

**他者の幸福を聴くことと自分の幸福を話すことが well-being に与える影響（松岡弥玲）：**他者の幸福な話を聴くこと、および自分の幸福を他者に話すことは、well-being にどのような影響を与えるのだろうか。ポジティブ心理学的介入（Positive Psychological Intervention；以下 PPI）とは、比較的簡単な活動の習慣化によって、幸福感の向上を目指す心理介入である（Lyubomirsky & Layous, 2013）。近年欧米において急速に発展しており、幸福感向上やうつなどの低減などの効果が見出されている一方で、欧米以外の知見は少なく、文化を超えて PPI の有効性が示されるのか否かについては疑問視されている。マインドフルフォトとは、PPI の一つであり、生活の中で、意味があり、自分に幸福感や喜びをもたらすために写真を撮り、他者と共有することで幸福感を高め、持続させる活動である（Kurtz, 2011; フロウ & パークス(2013 島井・福田・亀島監訳 2017)）。本研究では、大学生を対象として、マインドフルフォトを 3 枚用いた実験を行い、①介入前の well-being、②自分が他者に幸福な話をした後の well-being、③他者の幸福な話を聴いた後の well-being を測定し、①と②、もしくは①と③の well-being の変化を検討した結果について話題提供する。

**夫婦関係における調節過程の日米比較（竹村明子）：**夫婦間で問題が生じた場合、互いにどのような調節をするのかは、夫婦の well-being に大きな影響を及ぼす。夫婦関係を維持するためには、相手を納得させ自分の意見を受け容れさせるのが良いのか、それとも自分の意見を相手に合わせて調節していくのが良いのか、一致した結果は得られていない。夫婦関係には、自分自身の well-being だけでなく、相手の well-being にも配慮することが求められる。また、夫婦間の調節と well-being の関係は、個人の意見を主張することが尊重される社会と、他者の意見を受け容れることが尊重される社会とでは、異なることが指摘されている。本ラウンドテーブルでは、日本の高齢夫婦（199 組）とアメリカの高齢夫婦（208 組）を対象に実施した調査をもとに、夫婦間に問題が生じた時の調節方略と well-being の関係について、Actor-Partner Independence Model により分析した結果について話題提供する。

**地域社会における調整過程（浅川達人）：**個人の幸福やその個人が暮らす地域社会への適応は、その個人の努力や資質、資本だけで成し遂げられるわけではない。たとえば、有能な資質を持ち、親から莫大な資本を譲渡されたうえに、個人的努力と幸運で莫大な富を入手した個人がいたとする。ただし、この人が暮らす地域社会で暮らす人びとは貧困に喘いでいたとする。果たしてこの人は、幸福な生活を得られるだろうか。貧困に苦しむ人びとは、勤勉な努力が経済的余裕に結びつかない日々の生活を送る中で、勤勉に努力を積み重ねて人生を切り拓こうという倫理を持ち続けることが困難となる。さらに、自分の子どもたちの世代が自分たちを経済的に上回ることも期待できないと考えるため、長期的な人間関係を構築する努力を疎むようになる。その結果、人びとは他人を信頼しなくなると指摘されている（Uslaner, 2008）。本ラウンドテーブルでは、日本の三大都市圏（東京圏、名古屋圏、京阪神圏）在住者を対象として行った WEB 調査の結果（有効回答数：43,820 名）と、三大都市圏の小地域を表章単位とし国勢調査データを用いて行った社会地区分析の結果とを統合して作成したデータセットを用いて、マルチレベル分析により個人レベルの要因と地域レベルの要因を弁別することで、居住地域の社会空間構造が個人の健康観におよぼす影響を分析した結果について話題提供したい。